NPO 法人

八千代オイコス

SINCE　2001

設立20周年記念誌

2021年6月

八千代オイコスは20年目の節目を迎えました

八千代オイコスは設立以来、印旛沼水系の花輪川の整備作業をベースとして水質改善に取り組んで活動するとともに、市民の皆さん、子ども達、関係団体と共に環境保全活動を主体に共に学んできました

そして、これからも

20年の歩み

1998年～花輪川整備活動　1998年～ホタル観察会　2004年～川の学校in花輪川
2013年～米づくり　2014年～収穫祭・餅つき　2007年～エコウォーキング

■竹炭焼の思い出　　島　秀光

竹炭焼は、平成14年から24年までの11年間、10名で23回に亘り実施した。

自然を損なう竹林の対応、竹炭の河川浄化への利用など挑戦の思いが背中を押した。

初めの4～5年はドラム缶4個使用し、簡単な資料を手掛かりに、空気、温度調整、竹の並び方と試行錯誤の連続だった。後半は平戸在住の会員佐々木秀三さんの常設釜をお借りした。大量の竹材や燃料材を必要としたが、新たに竹酢液を回収できた。

釜だしの瞬間はいつもドキドキした。うまく出来た時のうれしさは忘れられない。イベントではオイコス活動の一つとして紹介もした。弁当を持ち寄った野外活動は楽しい時間だった。指導をしてくれた今は亡き佐々木秀三さん、そして場所提供の高秀牧場さん、道具運搬の金室彰さんにも深く感謝したい。

■八千代オイコスに参加して

藤田　千博

私は6年前に八千代市に孫たちの世話をする為関西から夫婦で引っ越してきました。

ある時オイコスの活動を知り、メンバーの人に一緒に活動しないかと誘われ日々楽しく活動に参加しています。八千代市は自然があるのに手入れのしていない自然が多々あります。現在はオイコスの活動や里山整備、農業ボラ

ンテイアを通じて自然を楽しんでいます。

小さい頃、里山や川で遊んだ楽しい思いを子供たちにも味わってもらいたい思いで日々活動しています。

オイコスの活動には、川の学校、餅つき大会、米つくり、エコウォーキング、ホタル鑑賞会等、市民の皆さんとの行事があり、毎回、参加者との語らいも楽しみです。

■オイコス入会の経緯とその後

新谷　啓一

オイコスに入会して5年目になります。

それ以前も、エコウォーキングやホタル狩りに参加していました。

現役は航空機整備の最先端で働き、世界の 2/3 の国を飛び回り、自社機や外国機の整備をしていました。

飛んでいる航空機は、いつ、どこが悪くなるかわかりません。短い地上滞留中に瞬時に判断して修理し、飛ばす為に、常に技量維持が必要で勉強漬けの毎日でした。

リタイアして、子ども時代の遊び場、“川”に関わりたいと思い、オイコスに入会しました。

今、世の中、新型コロナウイルス禍で対人活動制限中です。週6日のジム通いもやめ、午前中家で足踏み、ラジオ体操、ストレッチ等をやり、午後は、花輪川作業や畑作業です。

川へ行くと、時々、親子で楽しく遊ぶ姿が見られ、我々の日頃の苦労が報われ、気持ちが良くなり、もっと続けていきたいと思います。

サルビアの植栽

■オイコス20周年に思うこと

野口　和子

オイコス入会のきっかけは、今は亡き加藤さんや現理事の桑波田さんと出会ったことです。

最初の参加は高秀牧場での花輪川フェスティバルでした。バーベキューや豚汁、それに島さんのそば打ち実演が加わり、大いに盛り上がりました。

その後も川の学校や米づくり体験、エコウォーキングなどが着実に行われました。

一方、八千代市内での活動にとどめるべきか、他の地域の団体との連携まで広げるべきか、自然環境保全に軸足を置きながら、まちづくりという視点で活動すべきなど、熱い議論がありました。オイコスは実にまじめな人たちの集まりです。これからも、「市民参加によるまちづくり」への挑戦は続きます。

会員のおしゃべり広場

会員歴の長い人、短い人、それぞれの立場で、オイコス活動の見方は違います

今までのオイコス、これからのオイコスについて、存分に語り合っていただきました

----オイコスの基本活動は、花輪川整備を通じた印旛沼水系の水質浄化を目指す事ですが、それに付随しての、親水公園・遊歩道や花壇整備の機能の充実も大きな活動の目的です。今後、どんな事に力を入れていきますか。

中村　いままでの活動継続

川田　今の会員数では現状の活動で十分

新谷　花輪川清掃を徹底したい。草は伸びるし、川底はゴミが一杯。水の流れが鈍く、護岸なども必要である。

島　花輪川作業の区画は、花壇・ベンチなど整備が出来、しっかり維持できれば。

藤田　花輪川が四季を通じて楽しめる散策路になってきている。地域の人との共有を築く。

川瀬　散策の方の姿が見られるが、PRを高めて家族の憩いの場となるよう。

宮竹　草刈りや遊歩道整備、ゴミ回収を工夫して、環境保全「生き物が棲みやすい花輪川」を目指しての取り組み。

金室　花輪川の整備をやっているから、延長線上で、川の学校が開催できる。また、新谷さんが川の整備に力を入れているので、みんなで一緒に幅を広げたい。

桑波田　花輪川整備がベース、どこまでやるか、の展望が必要。地域の人が、花輪川をどう評価しているか、の検討も必要と思う。

小林　水質浄化は、一団体での取り組みでは難しい。花輪川近辺の整備に特化して,市民の方が気軽に水に触れる機会づくりが出来ればOKと考える。

----市民の方、なかでも子供達に、環境保護の大切さ、川などで生活する生き物を大切にする、など、行事を通じて考える場を作ってきましたが、

・現在の活動状況の継続で十分だ

・より充実した内容にしたほうが良い、その場合は

川田　メンバーの増員と若返りが急務。

新谷　子ども達にもっと、川の大切さを実感してもらうには、もっと、川をきれいにするために、月二回の清掃は必要と考える。

島　川の学校は、川に入って、生き物と触れ合う機会が重要で、その為のプログラムづくりが土台。

藤田　花輪川周辺を他団体と協力して楽しめる散策路にしたい。

宮竹　コロナ禍でいろいろ我慢している子どもたちに、せめて川遊びを楽しんでもらいたい。

桑波田　地域の皆さんと信頼関係が必要で、花輪川フェスティバルのような事が出来れば。ゆっくりで良いから、

地域に溶け込んでいく努力が必要と思う。現状の活動は、オイコス会員のパワーとのバランスで成り立っているので、パワー減退時のプログラムも考えておく必要がある。

小林　子ども達に、川に親しみ、生き物に親しむ機会を、地域団体や学校の保護者会などと協力して進める為に、一つの事業だけでも若い方達との連携が出来るようにPRに努めたい。

----オイコスの活動に参加して、楽しかった事、嬉しかった事やビックリした事

桑波田　活動後の焼き芋を皆で食べる＝活動した一体感があり、次の元気につながる。

川田　みんなが元気に活動しているのが、嬉しい。

新谷　自分たちが作ったもち米で、餅つきが出来た事。

島　竹炭焼や、田植え、ホタル調査など、思い出が一杯。

藤田　花輪川を散策している方から感謝された。

川瀬　かつて、高秀牧場でフェステイバルを行った事、竹炭焼に技術向上を図り、挑んだ事、ホタル生息数確認作業をチームを組んで実施した事などが、懐かしい思い出。

金田　皆さんとオイコスの活動で出会えた事。

宮竹　2018 年度の米づくり体験事業、大人数での実施が、計画・進行を無事完了した事。オイコスの強みは、メンバーそれぞれが節度を持ちながら忌憚なく意見を出し合える風通しの良い団体である事。

小森　NPO法人は入りづらい、と考えていた。

小林　土いじりが好きな人が多い。もともと、農家気や大工気、は誰でもあると言われるが、まさに実感。

----今後、オイコスの活動を広げるべきか、現状の範囲で継続するか、少し、活動を縮小するか

中村　現状の維持で十分ではないか。

川田　エコウォーキングなど周囲の町内会の方々にも参加の呼びかけを行ってはどうか。活動拡大は会員増強が不可欠増強が出来なければ、活動の整理も必要になる。

島　現状が精一杯だと考えるが、他団体と行事を相互応援などは可能ではないか。時期により、会員の労度が重なる事もあり、見直しも必要。
ただ、エコウォーク参加者などに花壇に種を植えてもらい、成長を見にくる、などの働きかけも、活動の拡大につながるかもしれない。

川瀬　活動拡大は、会員増強が大前提で、今、川の学校、米づくりの展開で十分と思う。

宮竹　他団体とのコラボが可能なメニューを確立し、スムーズに行える仕組みづくり。オイコスにとって有効な他団体に当方から協働の声掛けが出来るようなノウハウの共用と蓄積を図る。また、オイコスと外部団体との相互に、win-win となる連携強化。

金室　楽しい事が大切で、今まで通りで良いと思う。

小森　活動は今まで通りで、みんなが楽しければ良いと思う。今まで環境破壊をしてきたので、罪滅ぼしと思ってやっていきたい。ボランテイアなんだから、大きな成果を無理して求めなくても良いのでは。

小林　今のメンバーのパワーで出来る範囲をやる事が肝心。もし、事業個別に他人のパワーも利用出来れば、その場合は、活動の幅を広げる意味で取り組みたい。

花輪川遊歩道花壇の会　会員募集中！

夏はサルビア　　秋から冬はパンジー

■オイコスと川の学校

桑波田　和子

オイコスのメンバーは、多様な考え・得意技・趣味と様々です。これは会の活動に一瞬大変！と思いがちですが、とても大切な事です。なぜかな？と思えば、多様性を受け入れる気持ちをお互いが持っていることです。オイコスの川の学校は、子どもたちが川に親しみ、水辺の環境を大切にする気持ちを育むことをサポートすることを、主な目的で長年継続して開催してきました。主目的の為に、お互いの違いを認め合う場を作り上げてきたような気もします。メンバーの多様な個性が活かされ、子ども達との楽しい関係が生まれ、「将来僕は、私は、オイコスの活動に参加する」の言葉に、ほろり！となる、メンバーです。

■オイコス体験記　　金室　彰

八千代オイコスに係り 20 数年になります。八千代に住まいを構えて 35 年に、自営という事もあってPTAに推挙、やってきました。初めは自分の言ってきたことを実行しなければ子供たちに嘘を付く事になると、義務的に参加していましたが、私は昨年仕事をリタイアしてつくづく思う事があります。この活動に参加していて本当に良かったと、仕事をリタイアすると社会の接点が少なくなるのです。

毎日が日曜日になると人との繋がりが少なく、言葉を発する事が少なくなり、テレビが友達、動く事が無くなり、また、面倒くさくなります。この活動や市民活動に参加していると、沢山の仲間が出来、専門的な事も学べ身体も動かせ本当に参加して良かったと言える今日この頃です。

■八千代オイコス20周年記念によせて　　川田　修

私は入会5年になりますが、皆様の指導のおかげで退会せずに今日に至っております。

世の中をみますと新型コロナウイルス禍の中で活動を控えている会がある中で、八千代オイコスは会員一同頑張って活動しています。

私ごとですが、月に一度の活動を続けることで、入会当時より体調が良くなっているような気がする今日この頃で作業日が待ち遠しいくらいです。

今年は楽しみだった、川の学校、餅つき大会等、活動が一部自粛されましたが、拠点の花輪川は整備されて、道の両側にパンジーが咲き、市民の皆さんの目を潤しているのではと思っています。

今後新会長のもと、全員で力を合わせて活動していけば、魅力ある八千オイコスになり、会員も増えてゆくのではと期待します。八千代イコスの発展と、会員の皆さんの健康を祈念します。

■オイコス体験記　　金田　克明

有る物を出し合って、行動しましょう

・知恵の有る人は　知恵を

・ふところの豊かな人は　資金援助を

・肉体的余裕の有る人は労働力で

・何も思いつかない人は　和＝なごみで　タイコ持ち役　演出しましょう

等の精神でもって、オイコスメンバーの川田氏のお誘いで参加させていただいて、早二年。

川作業、米つくり、等、知識豊かな方々にもんでいただいて、やっと話題についていけるようになりました。毎回が、お勉強、お知恵のいただけるクラブ活動でしく参加させていただいています。

自然界の常識、当たり前の知恵以上に、各先輩方々の病の体験談等が、聞ける場面で知恵をいただける、話の出来るチャンスがもっともうれしい参加時なのに、残念！コロナ禍の為、雑談等出来ない事で、悔しい日々を過ごしています。

■オイコス出会いとプロローグ

宮竹　博之

オイコスとの原点は 2008 年春のエコウォーキング、当時事務局長の小原氏からお誘いがあり家族で参加しました。小原氏とは合唱仲間、当時私は 40 代現役で小原氏から常々「オイコス活動は取捨選択するように」がオイコス入会のきっかけです。

オイコス 15 周年記念行事開催 2016 年、市民活動団体支援金制度応募向けPR動画制作を通して活動の全貌を知りました。その年末にオイコスホームページの管理を小原氏から引き継ぎました。

オイコスの活動は主要事業を毎年繰り返し地道なものですが都度活動の振り返りや課題の共有と背伸びせず出来る箇所から改善、PDCAを回して組織力強化に繋げる取り組みについて今後も継続を期待します。

東葛毎日新聞社「ふれあい毎日」の取材風景

イラスト　オイコス会員　中村　孝男

■花輪川の謎　　川瀬　純一

皆さんが花輪川作業に出てメインの階段対面の鋼矢板の一部だけ白い塗料が施されているのに不思議を感じませんか。

オイコスのスタート当初は内に外に活動する場面が多く、何もかもこなすのが大変でした。数年の活動を経て、会の組織化が図られ事業推進の見える化が整理されました。と言っても少人数所帯であるから皆かけ持ちでした。その結果、7部会の組織を編成し、各々実践展開を進めました。その中の花輪川景観修復部より左岸鋼矢板に小学生卒業記念に絵を描いてもらおう、という提案があり、試験的に白ペンキ下塗りを行ったものの、諸事情もあり、頓挫した「夢の跡」なのです。

そんな事もあり、今後の夢に託したいと思っております。

■畑の学校　　小林　和幸

定年退職後、市内のグループ等に所属して毎日忙しく活動しておりましたが、オイコス会員の知人から誘われて、畑の学校に参加しました。畝を作り、種を蒔き、水やりなどの手入れを通しての収穫は達成感がありました。特に芋や落花生を抜くのは、「カイカン！」でした。次は米つくりへの参加、そうこうするうちに、イベントへの助っ人依頼、稲刈り後の稲架かけが倒れたなどの時の応援要請など、日中、地元に居る為、どしどし招集がかかり、だんだん深みにはまってしまいました。

幾つかのボランティア活動に携わっていますが、こういう活動は、第一に自分が楽しむ事が大事です。そして気持ちの良い仲間がいる事が続けていくうえでの大きな要素となります。オイコスはこの条件にピッタリです。

オイコス発足時の花輪川フェステイバルの一コマ

市民活動団体からのエール

NPO法人子ども劇場千葉県センター棚　田　純　子　様

八千代オイコス設立20周年おめでとうございます。

八千代市民活動サポートセンター開設以来、八千代オイコスのメンバーとの出会いや会員として唯一出来る広報誌の編集に関わらせていただいている「これまで」には、楽しかった数々の体験に感謝しかありませんが、今回、お題をいただいたオイコスの「これから」に目を向けると、私が活動しているNPOが、子ども分野ということもあり、子どもの自然体験事業「川の学校」に大いに期待しています。環境の変化により子供たちの体験が減っているうえに、長期化するコロナ感染の中で、子ども達の心身の発達への影響が危惧されています。子ども達の歓声が響く川であって欲しいと願います。もう一つ、他団体との連携です。

一足飛びにはいかない難しさがありますが、着実に歩みを進めているオイコスに期待します。

子どもネット八千代　理事長　越後　久美子　様

創立20周年記念、誠におめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。

八千代オイコスさんとの出会いは、八千代市に八千代市民活動サポートセンターが開設され、同じ市民活動団体として一緒に活動した事がきっかけです。

今、世界中に広がった新型コロナウイルス感染拡大の中、危機感を感じながら、不安な日々を送っています。このような状況にあっても、子ども達は生まれ育っていくことにはかわりありません。近くを流れている川、近所にある田んぼや畑は、人の育ちに必要不可欠なものです。そこに生育している植物や昆虫などの生き物から、命の大切さと自然の恵みの偉大さを、子ども達に伝えて残す活動を続けていることが、八千代オイコスさんの強みだと信じています。

これからも八千代オイコスさんの益々のご繁栄を心から祈念申し上げます。

八千代ゴミゼロの会　土　田　光　子　様

子供たちを対象とした環境講座・川の清掃作業・家族で楽しめるお米つくり等々、さまざまな環境活動をやってこられた、NPO法人八千代オイコスの皆様。20周年を迎えられておめでとうございます。

発足した頃、炭焼き・川の整備等参加させていただきましたが最近参加できず申し訳なく思っております。

八千代オイコスの皆様には、これからも日常生活にかかわる環境について活動していただきたいと思っております。ごみの排出量、再生可能エネルギー等様々な地球環境問題が山積されています。

一団体での解決策はなかなか難しいと思われます。

他団体と一緒に問題を提起、解決策を考えていただければと思います。

八千代オイコス設立20周年記念誌発刊に寄せて

2001年設立以来、多くの会員諸氏が、印旛沼の水質浄化を目的に取り組んで来ました。そこから活動の一環としての、子ども達への「川の学校」開催、米づくり、エコウォーキング、ホタル生息調査からの市民参加のホタル鑑賞会、など、市民の皆さんと共に歩んできた、20年でした。この節目に記念誌を発行 することになりましたが、単に、歩んで来た回顧録ではなく、未来のオイコスはどんな 姿になっているか、も、大きなテーマと捉えて、会員の提案、外から見たオイコスのこれから、なども取り上げてみました。自然環境保護は誰でも大事な事は判っていますが、手を出しづらいのか、活動に参加する方が増えません。しかし、現在のオイコスメンバーも思い切って加入し、活動する事で、楽しみにもつながっています。年代は問いません、「お試し参加」お待ちしております。

＊編集委員　金室彰・宮竹博之・藤田千博
・新谷啓一・小林和幸
＊発行責任者　金室彰
＊問合せ先・事務局　小林和幸
090-1842-8738